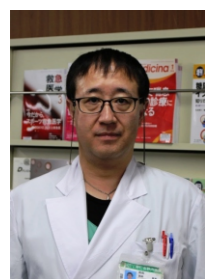


# 津田 守弘 医師 退職のご挨拶



非常勤医師として1年間、その後、常勤医師として2年間の勤務をさせていただきました津田守弘でございます。

出身は茨城県であり、歯科医師となり、歯科口腔外科に勤務した後、獨協医科大学に編入学しました。医学部を卒業後、東北地方に勤務した後、妻の実家である札幌市と茨城県つくば市を往復する生活を送っておりましたが、2015年3月の母の死を契機に、以前から興味があった漢方診療を実践したいと考え、2015年4月から毎週火曜日に、井齋病院長の総合診療科外来において、漢方診療の陪席をさせていただきつつ、同日午後の乳がん検診を担当しておりました。

2016年4月からは常勤医師となり、内科外来、病棟業務、乳がん検診、訪問診療、産業医業務を行ってまいりました。外科専門医の資格を有しており、外科の西原副院長が在籍しておられました頃には、外科手術に参加し、自身の赴任当初は、連日、手術室に入室していた時期もございました。また、医学部入学以前に大学病院の歯科口腔外科へ勤務しておりましたため、時間外の外来患者様や入院患者様に対して、抜歯や口腔内外の消炎術、口腔顎顔面部の腫瘍摘出術などを施行する機会も、しばしば、ございました。井齋病院長の御指導のもと、急性期治療における漢方薬の有効性を十分に認識することができました。

静仁会静内病院は、限られた人員と設備ではございますが、各々の職員が自身の役割を理解し、協力し、支えあうことで、日高地方の地域医療の軸を担っております。患者様・御家族様の御理解と当院職員の支援のもとに、私は、当初予定しておりました勤務期間を全うすることができました。茨城県の内陸地域出身の私にとって、日高地方の雄大な自然には、日々、驚かされました。山と海がこれほど近接した美しい風景を見たことがありませんでした。短い期間ではございましたが、この素晴らしい地域で皆様と過ごせましたことは、私にとってたいへん幸福な経験となりました。

2018年3月31日をもちまして静仁会静内病院を退職し、4月1日より石狩病院へ異動となります。今後は、専門とする『摂食嚥下リハビリテーションならびに摂食嚥下障害を有する方の栄養管理』を主体に、一般内科、一般外科、歯科口腔外科、乳がん検診、産業医活動を通じて、石狩地方の地域医療における自身の役割を果たしてまいりたいと考えております。日高地方の皆様が健やかに過ごされますことを、心よりお祈り申し上げます。



## ケーキビュッフェを 開催致しました



3月9日(金)に、当院5階にてケーキビュッフェを開催致しました。この催しは、福利厚生と職員同士の交流、地域活性化を目的としたもので、新ひだか町、新冠町のスイーツショップから約500個のケーキを用意。当日は職員と職員家族、150人以上の参加があり、皆さん目を輝かせながらケーキを選んでいました。

当院では、今後もこういった催しを計画しながら地域住民、職員同士の積極的な交流を図り、地域に愛される職員が働きやすい医療機関作りに取り組んでいきます。



### 目次 ~Contents~

- 院長の独り言
- 訪問看護師・看護補助者募集しています
- 意外に知らないタバコの真実
- 津田医師退職のご挨拶
- ケーキビュッフェを開催致しました

# 院長の独り言

～『枯れ死』のススメ その1～



私は静仁会静内病院の療養型病棟を担当しています。多くの方はリハビリテーションを行って、ご自宅へ戻られるか、ご自宅の介護力が不足している場合は施設に入所されることとなります。しかし、病院で最期を迎えられる方も少なからずおられます。

病院でなくなられる方は、最終的に寝たきり状態になります。日本は諸外国と比較して寝たきりの率が群を抜いて高くなっています。日本を100としますと、アメリカ20、イギリス33、デンマーク17、スウェーデン10と大きな開きがあります。



高齢者には生活の質を大きく落とす出来事がいくつかあります。

ひとつは転倒して骨折し歩行が満足にできなくなったときです。特に自宅で暮らしている場合には、自分で歩いてトイレに行って、下着を下げて用を足し下着を上げて、トイレから歩いて出て来られなくなると、長期の介護は難しくなり、自分の家だとしても、もはや自宅では生活できなくなります。



もうひとつは、食べ物が飲み込めなくなり、食事の介助をしても食べることができなくなったときです。水分や栄養がとれなければ、徐々に衰弱して命を失うこととなりますので、本人の意思とは無関係に、ご家族の要望や医療者の判断で、点滴で水分補給をし、鼻から胃の中または直接胃に穴を開けて管を挿入して栄養を流し込むこと（経管栄養）が一般的に行われて来

ました。しかし、最近はおもってご家族とお話をして、点滴や経管栄養を一切行わないという意思表示をされて、そのお考えをご家族と共有している方が少しずつ増えてきました。高齢者の延命治療に関する希望調査では、65歳以上で「少しでも延命できるよう、あらゆる医療をしてほしい」と回答した人は4.7%と少なく、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」と回答した人は91.1%でした。この「自然にまかせ」方法のひとつとして私は「枯れ死」という生き方を提唱します。次回はその詳細をご説明します。

## 訪問看護師・看護補助者募集しています!

業務の拡大に伴い、訪問看護師・看護補助者として働いていただける方を募集しています。年齢、経験年数は問いません。ブランクがあっても大丈夫！また、病棟・外来看護師につきましても募集しています。勤務時間、勤務体系など相談に応じますので、まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

☎0146-42-0701

担当：看護部 細川まで



## 第7回

# 意外に知らないタバコの真実

～喫煙と美容～



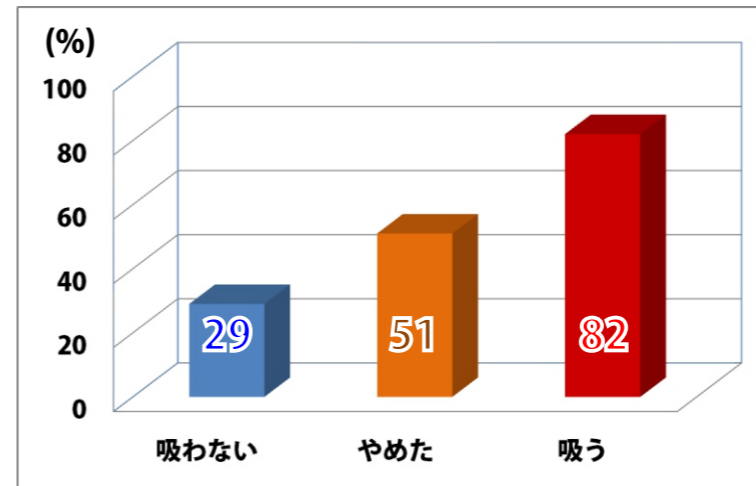
循環器内科  
上原 明彦

タバコはさまざまな病気を引き起こす原因となり、体にとって悪影響だということは多くの方が理解していることと思います。しかし、タバコによる悪影響はそれだけに留まりません。今回はタバコがいかに美容の大敵であるかを紹介します。

### タバコは美容の敵

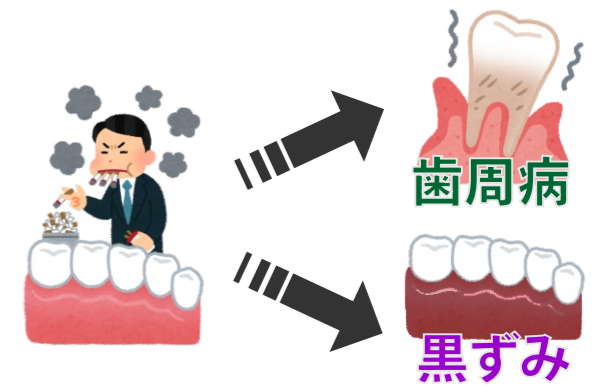
口は、タバコによる被害を一番最初に受ける部位です。タバコを吸うと歯肉が黒ずみ、メラニン色素の沈着を促進させ、どす黒い歯茎を作りだします。禁煙しても消えるまでに3年以上かかります。

歯肉のメラニン色素沈着



日本口腔衛生学会雑誌 43:40, 1993.

タバコは歯茎の歯周病  
黒ずみの原因となります。



### 皮膚を老化させる!?

皮膚に対する悪玉は紫外線が広く知られています。しかし、皮膚にとって喫煙は大変悪影響を与えます。非喫煙者に比べ、過去に喫煙していた人は皮膚のシワが増えます。現在喫煙している人はさらにシワが増え、その影響は年齢が重なるにつれて大きくなります。1日20本の喫煙は、皮膚を10年老化させると報告されており、気付いた時には戻せない程ダメージが進んでしまうのです。喫煙者は、非喫煙者と比べて明らかに顔が老けて見えるため『スモーカーズフェイス』と呼ばれています。以下がその特徴です。



スモーカーズフェイスから脱却するためには禁煙しかありません。美容のためにも喫煙しないこと、喫煙している人は禁煙することが大変重要です。